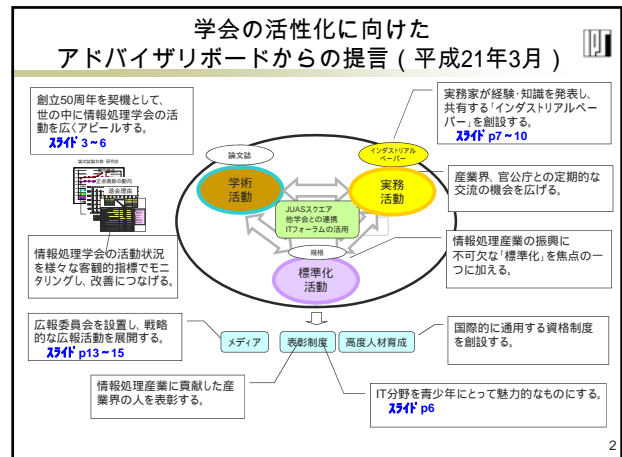


# 1.平成21年度事業報告



## 平成21年度 主な活動成果 (1) (p.1)

### 創立50周年記念事業の推進

～会員サービスの一層の向上と社会への還元～

- (1) 記念全国大会の開催
  - (2) 論文誌・研究会活動のオンライン化
  - (3) 次世代型ハンドブックの刊行
  - (4) コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局
  - (5) 50年史、記念会誌、記念論文、記念式典
- (1) は次頁、それ以外は22年度計画を参照

## 創立50周年記念全国大会 (1) (p.5)

会期:2010年3月9日～11日

会場:東京大学 本郷キャンパス

テーマ:コンピュータの無い社会を想像できますか?

聴講参加無料

総参加者数:7,150名

(過去の参加者数は2,000名前後)

## 創立50周年記念全国大会 (2)

### 過去最大規模

- 一般セッション:382件 学生セッション:1,413件  
デモセッション:27件 併設イベント:17トラック
- 東京大学本郷キャンパスを中心に開催

3月8日(月)	情報大航海シンポジウム 言語処理学会チュートリアル
3月9日(火) ～ 3月11日(木)	情報処理学会本大会、 言語処理学会年次大会本大会、 ソフトウェアジャパン2010
3月12日(金)	計算科学技術と次世代スーパー コンピューティング基盤、 情報爆発シンポジウム



## 記念全国大会で、IT分野を青少年にとって 魅力的なものにする

- イマジンカップ(マイクロソフト主催)を共催
- 中学・高校生ロボットコンテスト「ロボットを作ろう、動かそう」(ベネッセ・マイクロソフト主催)を共催
- 学生の講演発表をエンカレッジ



50周年を記念して始めることになった全国大会の特別企画として、「情報処理学会推薦卒業論文」「情報処理学会推薦修士論文」の情報処理学会による認定を以下の要領で行いますので、今年度、卒業論文・修士論文を執筆される方は、ぜひご発表へ応募ください。

平成21年度 主な活動成果 (2) (p.1, p.65)

実務家の経験・知識の発露の場としての  
「デジタルプラクティス」の創刊 (1)

- 2月15日創刊
- 季刊(1月, 4月, 7月, 10月)
- Webサイト上で無料公開
- 2月3日プレスリリース
- 記念大会, JUAS等で配布周知



実務家の経験・知識の発露の場としての  
「デジタルプラクティス」の創刊 (2)

- 実践中心で社会的有用性を重視
- キーワードや技術分野の例:  
Web アプリケーション, クラウドコンピューティング,  
標準規格とIT とビジネスモデル, セキュリティ,  
情報システム構築とプロジェクト管理, CIO/CTO,  
教育, 要求仕様書, サービスサイエンス, ICカード,  
組込みシステム, IT系コンサルティングなど

実務家の経験・知識の発露の場としての  
「デジタルプラクティス」の創刊 (3)

- 刊行スケジュール (「」内は特集)

創刊号 「サービスサイエンス」  
 2010年 4月 「事業活きる標準化の力」  
 2010年 7月 「ICカードが社会を変える」  
 2010年10月 「価値を抜き出すコンサルティング」  
 2011年 1月 「XMLの勤どころ」  
 2011年 4月 「世界に自慢できる  
日本のソフトウェア(仮)」

記念大会・デジタルプラクティスの広報



平成21年度 主な活動成果 (3) (p.1)

高度IT人材資格制度への取り組み

- 基本方針
  - ・ITSSに準拠した認証制度とする。
  - ・国際的に通用する資格とするため、海外動向をウォッチする。
    - IFIPが設けたIT人材資格制度の国際的枠組みであるIP3に加盟し、ボードメンバーとなっている
- 制度設計WGにより、認定スキームの設計検討を推進中

平成21年度 主な活動成果 (4) (p.2)

アドバイザーボードからの提言に基づくアクションプランの推進

- 学術・実務・標準の3焦点が集う場の設定
  - JUASスクエア2009への講師派遣
  - ソフトウェアジャパン2010での 情報処理振興機構 (IPA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 情報サービス産業協会 (JISA) 等との連携企画
- ダイバシティの取組み: 記念大会パネル  
「CHANGE! Yes, we can!  
Past, Present, Future of Women in IT」
- 青少年向け活動の推進 (前述スライド6参照)

平成21年度 主な活動成果(5) (p.2)

積極的な社会提言と情報発信

<http://www.ipsj.or.jp/03somu/teigen/index.html>

次の意見表明を行い、各方面に、広く取り上げられた。

➤ Googleブック検索の提起した課題(9月30日)

➤ 行政刷新会議事業仕分けに関する意見書 (11月26日)

Googleブック検索の提起した課題 一その功罪一

2009年9月30日  
社団法人 情報処理学会  
会長 白鳥 剛郎

情報技術の普及に伴い、情報の生産・流通が加速し、世界中がひとつの村であるかのように、匿名匿名にかかわらずコミュニケーションが行われるようになった結果、国境を越え異なる制度間で解決しなければならない問題が山積している。

米Google, Inc. (以下「Google」という)がそのブック検索を通じて提起した問題もその典型的なものといえる。

当学会では、人々の知的資産である書籍を多人多量の労力を投入してデジタル化し、待来にわたって閲覧可能とするように世界に広くアクセス機会を提供しようとするGoogleの果敢な試みに対して敬意を表したい。これまでにも多くの国や企業が試みて実現しきれなかった膨大な蔵書を持つデジタル図書館が眼前に広がっていることは驚異的なことである。

しかしながら、Googleの著作権侵害に対して米国著作権者が提起した訴訟の和解(以下「本件和解」という)は、世界中の著作権者に押し、日本ばかりでなく世界中の権利者にとって、大きな損害を及ぼしていること多量に懸念を抱いている。

情報処理学会(会長 白鳥剛郎)が行政刷新会議事業仕分けについて意見表明

配信日時: 2009年11月26日 15:00

平成21年11月26日に行われた行政刷新会議の事業仕分けにおいて、学術や科学研究に関する事業についての議論が行われ、学術の発展や研究の促進を目的とした事業仕分けの推進が提言された。本学会は、学術の発展や研究の促進を目的とした事業仕分けの推進を支持する立場から、行政刷新会議の事業仕分けについて意見を表明する。本学会として大きな懸念を抱いている。

行政刷新会議事業仕分けについての懸念

平成21年11月26日  
社団法人 情報処理学会

平成21年11月26日に行われた行政刷新会議の事業仕分けにおいて、学術や科学研究に関する事業についての議論が行われ、学術の発展や研究の促進を目的とした事業仕分けの推進が提言された。本学会は、学術の発展や研究の促進を目的とした事業仕分けの推進を支持する立場から、行政刷新会議の事業仕分けについて意見を表明する。本学会として大きな懸念を抱いている。

特に今回は本学会が関係する「次世代型ハイブリッド・ユーティリティ」に関する事業仕分けについても議論が行われ、事業仕分けの推進が提言された。本学会は、学術の発展や研究の促進を目的とした事業仕分けの推進を支持する立場から、行政刷新会議の事業仕分けについて意見を表明する。本学会として大きな懸念を抱いている。

平成21年度 主な活動成果(6) (p.12, p.89)

公益法人制度改革への対応状況

20年12月22日 臨時総会: 一般社団法人移行決議

21年 1月15日 一般社団法人への移行申請提出

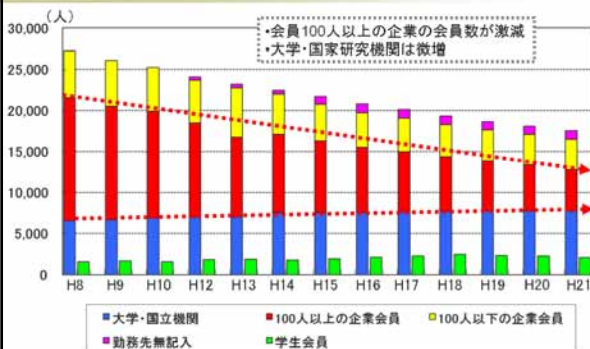
21年 5月29日 通常総会: 定款変更案の追加変更

22年 3月24日 臨時総会: 定款変更案の追加変更

22年 5月31日 通常総会: 定款変更案の追加変更

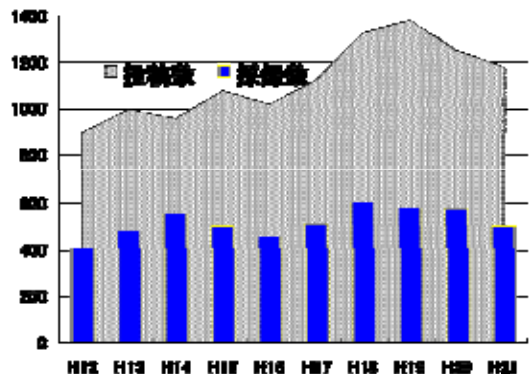
現在、行政庁からの移行認可待ち

正会員数の減少

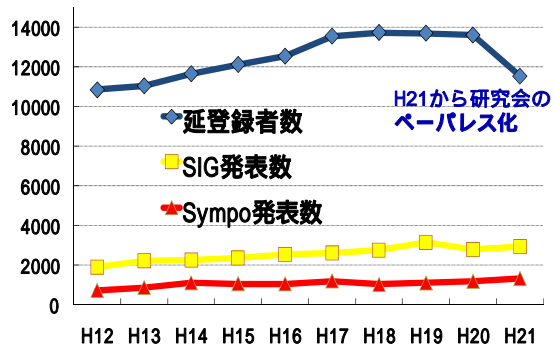


\* H11は新システムへの移行によりデータ集計不備

[参考] ジャーナル・トランザクション論文数

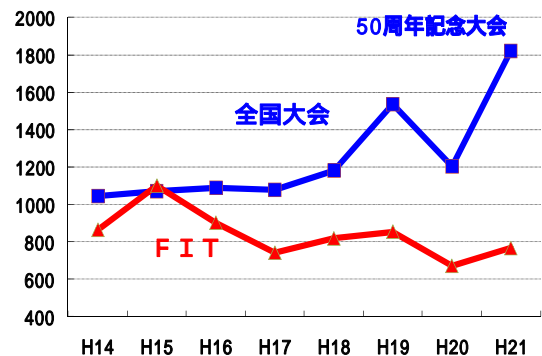


【参考】研究会（登録数・発表数）



19

【参考】全国大会・FIT講演数



20

## 2. 平成21年度決算報告

情報処理学会 21

### 平成21年度決算について

#### 新々公益法人会計基準への変更

- 法人全体の貸借対照表と正味財産増減計算書（損益計算書）が基本。
- 従来 of 会計区分の情報は内訳表に移行。
- 内訳表区分は一般社団法人の事業区分に対応。
- 収支計算書は内部管理資料として作成。

情報処理学会 22

### 平成21年度貸借対照表 (p.43)

	21年度	20年度	増減
(単位:千円)			
<b>資産</b>	1,203,534	1,206,218	-2,684
流動資産	277,745	465,344	-187,599
固定資産-特定資産	863,892	671,207	192,685
固定資産-その他	61,897	69,667	-7,770
<b>負債</b>	213,435	243,688	-30,253
流動負債	141,334	173,960	-32,626
固定負債	72,101	69,728	2,373
<b>正味財産</b>	990,099	962,530	27,569

情報処理学会 23

### 前年度からの主な増減要因 (p.43)

	増減	単位:千円
<b>[資産]</b>	<b>2,684 減</b>	
・現預金減:	181,595 (積立資産化ほか)	
・未収金減:	12,254 (受託未収額 減ほか)	
・特定資産増:	192,685 (積立資産の増額) ほか	
<b>[負債]</b>	<b>30,253 減</b>	
・未払金減:	25,212 (年度内の支払完了による減)	
・前受金減:	7,902 (会費収入減ほか) ほか	
<b>[正味財産]</b>	<b>27,569 増</b>	

情報処理学会 24

### 平成21年度正味財産増減計算書 (p.45)

		(単位:千円)		
		21年度	20年度	差異
経常増減	経常収益	746,778	793,185	-46,407
	事業収益	524,782	559,874	-35,092
	受取会費ほか	221,996	233,311	-11,315
	経常費用	720,467	758,136	-37,669
	事業費	654,999	660,674	-5,675
	管理費	65,468	97,462	-31,994
	経常増減	26,311	35,049	-8,738
	経常外増減	1,258	6,601	-5,343
	当期正味財産増減	27,569	41,650	-14,081

情報処理学会 25

### 前年度からの主な増減要因 (p.45)

[経常収益]	46,407 減	単位:千円
受取会費減:	7,396 (会員減)	
事業収益減:	35,092 ほか	
- 受託・補助金減	33,408、論文掲載収益減	20,625
- ペーパレス化による研究会登録費の低減	18,089 ほか	
- 記念大会広告・国際会議参加費増	47,950	
[経常費用]	37,669 減	
- 受託等関係経費減	38,333、論文掲載経費減	13,629
研究会ペーパレス化経費減	22,756 ほか	
- 記念大会・国際会議経費増	40,689	
[経常増減額]	8,738 減	

情報処理学会 26

## 3. 平成21年度監査報告

監事監査報告 (p.63)

独立監査人監査報告 (p.64)

情報処理学会 27

## 4. 平成22年度事業計画

情報処理学会 28

### 平成22年度 重点活動 (1) (p.65)

**50周年(平成22年)記念事業の推進**  
～会員サービスの一層の向上と社会への還元～

- (1) 論文誌・研究会活動のオンライン化
- (2) 次世代型ハンドブックの刊行
- (3) コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局
- (4) 50年史、記念会誌、記念論文、記念式典
- (5) 記念全国大会の開催 ( 事業報告済)

情報処理学会 29

### 平成22年度 重点活動 (1) (p.73)

～創立50周年記念事業～

**論文誌・研究会活動のオンライン化**

～ペーパレス化による価格の低減化と、  
オンライン化による各種メリットの追及～

- 2008年4月 論文誌のペーパレス化
- 2008年9月 発行後2年の刊行物のオープンアクセス化
- 2009年4月 研究会活動のペーパレス化
- 2010年4月 NIIの協力を得て、低価格で購読可能な  
総合デジタルライブラリの公開

情報処理学会 30

平成22年度 重点活動 (1) (p.73)  
～ 創立50周年記念事業～

次世代型ハンドブックの刊行

オンラインで持続的に改訂が反映可能

- 2010年11月に一般公開予定
- さらに、他学会と連携した「総合学術辞典」を構築し、広く一般へ公開予定

平成22年度 重点活動 (1) (p.70)  
～ 創立50周年記念事業～

コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局

4月2日 日本将棋連盟へ挑戦状

- 秋頃 女流プロ棋士との対局
- さらに、トッププロ棋士との対戦を目指し、ITの進歩への貢献と社会の関心を喚起する

学会の挑戦状と将棋連盟の対応



平成22年度 重点活動 (1) (p.65)  
～ 創立50周年記念事業～

記念会誌、記念論文、50年史、式典

- |      |              |
|------|--------------|
| 記念会誌 | 2010年に特集号を掲載 |
| 記念論文 | 記念式典で表彰      |
| 50年史 | 記念式典で配布      |
| 記念式典 | 2010年11月18日  |

平成22年度 重点活動 (2) (p.66)

JIPの海外投稿促進と国際化の推進

- 編集委員会の国際化
- JIP掲載料の2年間無料化

平成22年度 重点活動 (3) (p.65, 69, 72)

実務家の経験・知識の発露の場としての「デジタルプラクティス」の刊行推進

編集体制の充実

高度IT人材育成に向けた取組みの推進

資格制度の詳細設計の継続

## 5. 平成22年度収支予算

情報処理学会 37

## 平成22年度予算書 (p.77)

				(単位:千円)
		22年度	21年度	差異
経常増減	経常収益	663,457	707,289	-43,832
	事業収益	453,597	493,050	-39,453
	受取会費ほか	209,860	214,239	-4,379
	経常費用	775,910	782,073	-6,163
	事業費	679,216	710,478	-31,262
	管理費	96,694	71,595	25,099
	経常増減	-112,453	-74,784	-37,669
経常外増減		1,836	0	1,836
当期正味財産増減		-110,617	-74,784	-35,833

情報処理学会 38

## 収益減への財務対応 (p.83)

### 積立資産の有効活用

- ▶ 前期末に2億円相当を増額(総額7.9億円)
  - 本部事業関係積立資産:総額5.5億円
  - 標準化関係積立資産:総額2.4億円
- ▶ 用途をより具体化した積立資産の新設
  - 学術刊行物積立資産
  - 学術講習会積立資産
  - 人材育成積立資産
- ▶ 従来の積立資産の整理
  - 記念事業の終了に伴う記念事業積立資産の縮小
  - 用途具体化による公益目的事業積立資産の縮小

情報処理学会 39

## 当期予算:正味財産減少の主な要因

		単位:千円	
当期予算の正味財産増減		110,617 減	
本部所管分:		51,199	
- 記念事業関係経費増	40,300	当期まで	
- デジタルプラクティス等推進経費増	7,500	来期まで予定	
上記経費はいずれも積立資産を取り崩して充当する。			
規格所管分:		59,418	
- 規格賛助収入減	17,500		
- 国際会議派遣経費増	26,500		
- 職員の一時増	10,000	当期まで予定	
上記経費を含む48,000は積立資産を取り崩して充当する。			

情報処理学会 40

## 前年度予算からの主な増減要因

		単位:千円	
[経常収益]	43,832 減		
事業収益減:	39,453 ほか		
- 論文掲載計画減	14,165	規格賛助口数減	17,500
記念大会等参加収益減	8,466 ほか		
[経常費用]	6,163 減		
- 規格国際会議派遣経費増	26,500		
- 記念事業関係減	20,000 ほか		
(記念大会減・将棋プロジェクト計画減	40,000		
記念論文・記念史・記念式典増	20,000)		
[経常増減額]	37,669 減		

情報処理学会 41

## 6. 会費滞納会員の扱い

除名 532名

情報処理学会 42

## 引続き 表彰等

---

- ・ 名誉会員
- ・ 平成21年度功績賞
- ・ 平成21年度論文賞
- ・ 平成21年度喜安記念業績賞
- ・ 平成21年度長尾真記念特別賞
- ・ 平成22年度役員改選
- ・ 法人移行に伴う定款の追加変更